


プレイヤー名 \_\_\_\_\_



記憶のカケラ	内容
62 手をつなぐ	誰かと手をつないでいた。相手はわからないけれど、確かに手の中にあった安心感、手に触れることで安らぎを得られるなら。世間で今いる仲間と手をつないでいたい。冷たい手でもぬくもりは感じられるから。
苦い思い出B	
甘い思い出	興奮となって久しい喫茶店を君たちは秘密基地としていた。コーヒータのお菓子を待たず込んでこっそり遊びました。おしゃべりに花を咲かせたり、あの日のことを思い出すと、冷え切ったこの身体でも胸が暖かくなる。皆で遊んでいた頃は幸せだった。
あの日のこと	秘密基地にいた。暑くなった部屋には涼風が吹いた。どうやら雨が降るのを覚悟していらしたらしい。私は静かに寝ていて、目を覚めた時、何かが濡れていた。顔に水滴が落ちて、微かに震えだす。寒い。暑くなった部屋に、雨の音だけが響いていた。初めて感じた自然の力。涙腺が熱くなりかけた。これで、もう寂しくない。そう思うのは当然だが、言葉にした瞬間に、

能力値	クラス	修正	合計
武装	1	1	2
変異	1	0	1
改造	2	0	2

未練				
対象	種類		狂気点	発狂時ペナルティ
たからもの	依存	3	①②③④⑤	パーツとして所持。破壊で狂気点+1
HO1	執着	3	①②③④⑤	
HO3	独占	3	①②③④⑤	
		2	①②③④⑤	
		1	①②③④⑤	
		2	①②③④⑤	

[illegible]